

人間文化学部 地域文化学科

Department of REGIONAL STUDIES



将来の理想が何倍にも大きく膨らみます。県大でやりたいことを見つけてください。

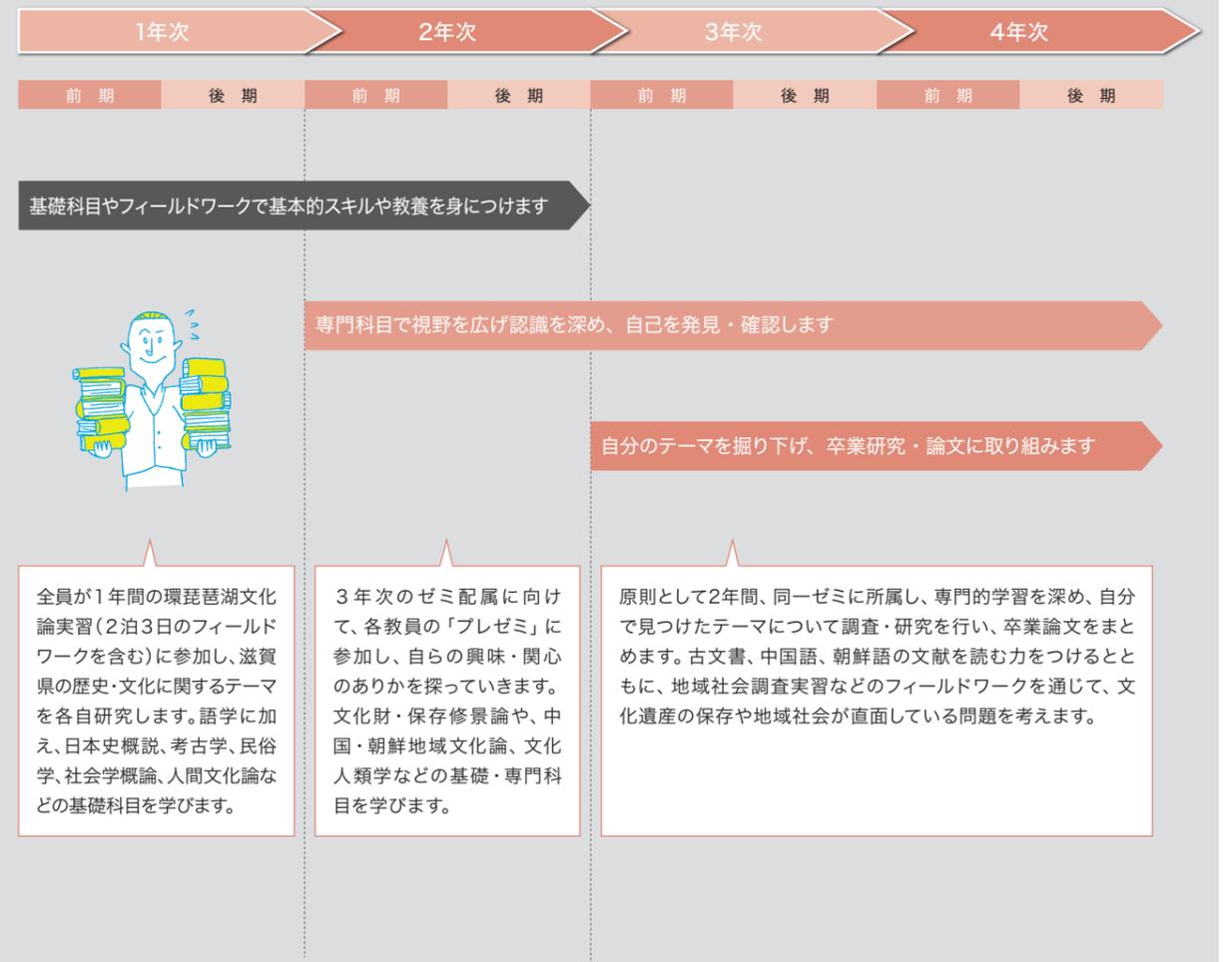
高校の頃から歴史や地理といった社会科の勉強が好きで、大学でも歴史学や地理学などの研究をできたらいいなと思い、受験しました。

入学後は当然、歴史学や地理学を研究するものだと思っていました。しかし、1回生の夏に環琵琶湖文化論実習という授業を受けたことで、実際に地域に入り込みヒトと触れ合いながら調査を行うフィールドワークに魅力を感じました。その経験をきっかけに近江楽座という地域に密着した学生主体の活動団体に入り、地域の人と触れ合い、知見を広げながら日々の学生生活を過ごしています。

幅広く学べることが県大の魅力です。是非やりたいことを見つけて充実したキャンパスライフを送りましょう。待っています！

人間文化学部 地域文化学科 3回生
柿 佑爾 さん / 京都府立向陽高等学校出身

◆学びのステップ 〈4年間の学習フロー〉



地域社会の歴史と文化を学び、 未来の地域社会を拓く人材を育てる。

◆アドミッションポリシー

地域文化学科では、日本、特に近江の歴史・文化・社会、およびアジアとの交流に強い関心を持ちながら自ら行動し、社会貢献の一環として学んだことを地域に還元し、科学的な目で地域を見つめてこれからの地域のありかたを探求する意欲を持ち、問題解決能力をもって独創的な発想ができる人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ① 地域社会の過去と現在の諸問題を学ぶために必要な基礎学力を有する人(知識・理解)
- ② 地域社会の諸問題について、学んだことをふまえて論理的に考え、判断する基礎力のある人(思考力・判断力)
- ③ 歴史・文化・社会に強い関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲をもつ人(関心・意欲)
- ④ ローカルな問題からグローバルな問題まで広い関心を持ち、自らの考えを相手に伝え、多様な人々と交流できる人(表現力・協働性)

◆学びのポイント

現代のような情報化社会において、かえって重要になってくるのは、現実の対象と向かいあって考えることです。地域文化学科では、1年次、2年次において、様々な対象に切り込み、分析し、表現するための学問的方法の習得を目指します。3年次からは少人数のゼミに配属され、各教員の指導のもと、あるテーマに対して学生自身が実際にその方法を適用し、卒業論文を仕上げます。地域文化学科において教員が研究しているテーマは多様です。時代でいえば古代から現代まで、地域でいえば滋賀県から中国・朝鮮にまでそのフィールドは広がります。学生諸君には何よりも自ら興味をもち、積極的に現実の対象に立ち向かってもらいたいと思います。その経験は、大学卒業後の仕事や生活においても大いに力になるはずで



<p>Point 1 ゼミ形式の演習</p> <p>少人数教育によって学生と教員の間、学生と学生の間に密接な交流が生まれます。</p>	<p>Point 2 「地域」での実習</p> <p>近江から朝鮮半島、中国大陸へ、人と文化を求めてフィールドワークに出かけます。</p>	<p>Point 3 多様な学問方法</p> <p>歴史学、考古学、民俗学、建築学、社会学、地理学、美術史、文化人類学、地域計画学など、「地域」との対話を求めて、さまざまな視点と手法を習得します。</p>
--	--	---



人間文化学部
地域文化学科
市川 秀之 教授

地域文化学科 ってこんなところ

地域文化学科では、私たちの生活する「地域」を、歴史学や考古学と、社会学や地理学などから学びます。さらに歴史遺産を未来に伝える方法を学びます。最大の特徴はフィールドワークで学べることです。文書調査、発掘調査、祭礼調査によって学びの世界は大きく広がります。



中国文化人類学実習旅行
中国の文化人類学実習旅行で、四川省カンゼチベット族自治州にて

〈専門科目の例〉 講義

歴史的地域論

地域社会の基礎となる家や村・町が、どのように生まれ、どのような役割を果たし、変化していくのかを、古代から近代を通してさまざまな視点から考えます。

考古学

考古学の基礎を学び、具体的な遺跡や遺物を通して、人類の歩んできた歴史を分析し、文化交流や生活の発展過程を検証します。

文化財情報論

専用ソフトを用いた演習も行いながら、文化財の現場で一般的となってきたコンピュータによる3次元モデル・アニメーションの作成・活用について学びます。

民俗学

普通の人々の普通の暮らしが民俗です。さまざまな祭りや伝承が残る、民俗の宝庫といわれる近江を舞台に、民俗とそれを支える社会のしくみを解明していきます。

日本社会論

近現代の日本において、階層・ジェンダー・エスニシティの面で差別を受け、また排除されてきた人々の視点を通して、「日本社会」を見直します。

中国地域文化論

中国文化の基礎をなす世界観を知り、多様な民族の暮らしや今中国で起こっている文化をめぐる問題について学びます。

◆研究分野とスタッフ

○日本史系

人間や地域社会のあり方を、歴史を通して考える
古代から近代までのさまざまな時代に生きた人間や社会、文化のあり方を研究します。近江をはじめ、多様な地域社会の実態に迫る日本地域史や、絵画・仏像などの作品を素材とする日本美術史、女性に焦点をあてたジェンダー史などを対象に、古文書や古記録、美術品の調査や聞き取り調査など、現地に即したフィールドワークも取り入れながら、多面的に歴史研究を進めています。
(水野 章二教授、京樂 真帆子教授、亀井 若菜教授、東 幸代教授)

○文化交流系

日本と中国大陸・朝鮮半島との文化交流の歴史と現代を考える
古代から現代にいたるまで、日本と中国・朝鮮半島は、政治経済的、文化的に深く影響しあってきました。長期的な広い視野をもって東アジアの交流史を学ぶことで、いま私たちが持っている歴史認識を捉えなおし、21世紀の東アジアの国際関係を考えます。中近世の日本・中国・朝鮮の交流(歴史学)と、中国および東南アジアの中国系移民社会(文化人類学)について研究しています。
(横田 祥子助教、鈴木 開助教)

○地域遺産系

地域遺産を記録し、その保存や活用に取り組む
国宝・重要文化財の数が全国第4位である滋賀県は文化財の宝庫であり、文化財指定を受けていないものも含めると、実に多くの地域遺産にあふれている場所です。地域遺産系では、滋賀県を主なフィールドとしながら、日本ならびに世界の地域遺産を、持続可能な状況で後世に残し活用するための方法を学びます。
(濱崎 一志教授、中井 均教授、市川 秀之教授、石川 慎治准教授)

○現代社会系

近現代日本における地域社会を多面的に考える
社会学、地理学、地域計画学の三分野からなります。社会学分野ではインタビューと参与観察を通じて、祭・芸能・アートといった地域文化、メディア、観光、まちづくりなどを研究しています。地理学分野では人口動態、各種産業、都市問題などの様々なデータを地図化し、地域特性やその背後にある要因について研究しています。地域計画学分野では、地域課題を望ましい方向に改善すべく、都道府県や市町村レベルの地域づくり計画の策定や既存施策の効果検証を行っています。
(塚本 礼仁准教授、武田 俊輔准教授、萩原 和准教授)

1日のスケジュール

- 8:50 通学
- 9:00 1限:英語Speaking & Listening
- 10:40 2限:現代中国論
- 12:10 政所茶レン茶(近江楽園)ミーティング
- 13:30 昼休み
- 14:50 4限:文化社会学
- 16:30 下校
- 18:00 アルバイト
- 22:00 自宅着



英語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とした講義です。



中国の政治や社会問題について学びます。



政所茶レン茶(近江楽園)→茶の産地である滋賀県東近江市政所町で茶畑を借り、現地の茶農家さんの指導を受けながらお茶づくりの実践をしています。地元からお茶にまつわる文化などを聞き、政所の暮らし・文化を学び伝えます。



伝統的とされる芸能や祭の変化を、近現代の日本における観光や開発などの側面から考える授業です。

CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日



環琵琶湖文化論実習
米原醒ヶ井の集落を歩く



考古学実習
発掘調査に必要な測量、写真撮影、遺物実測、拓本などを行います。



地域社会調査実習
インタビューや参与観察、アンケートを通して、地域社会の現状と課題を探ります。



『大学的滋賀ガイド』と『長浜 曳山まつりの舞台裏』
『大学的滋賀ガイド』、『苗村神社三十三年式年大祭調査報告書』、『世代をつなぐ童子の祭り 苗村神社三十三年式年大祭』を刊行



古民家の保存活用実習
伝統的建造物の調査とその保存計画の策定や古民家の再生を行っています。



古文書演習Ⅱ
地域に残る古文書の現物に触れ、その調査・読解を通して、歴史の展開を学びます。



美術史実習
美術史実習では、美術作品の見学に彦根や京都の博物館・美術館に行きます。彦根の仏壇店も訪れました。



地理学実習
デジタルマッピング(コンピュータによる地図制作)の技術を身につけていきます。

◆進路状況(2015~2017年度卒業生)

◆就職先

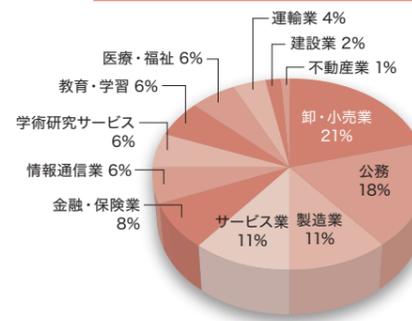
- 東海運輸(株)カインズ
- 関西アーバン銀行
- 京セラコミュニケーションシステム(株)
- 京都信用金庫
- JAグリーン近江
- 滋賀県信用組合
- 滋賀交通(株)
- 滋賀日産自動車(株)
- 象印マホービン(株)
- 日本郵便(株)
- (株)パロールホールディングス
- 東日本旅客鉄道(株)
- (株)平和堂
- (株)三重銀行
- (株)三井住友銀行
- 村田機械(株)
- ヤンマー(株)
- (株)ロック・フィールド
- 茨木市教育委員会
- 近江八幡市
- 大阪国税局
- 大阪府
- 大津市
- 金沢国税局
- 関東信越国税局
- 岐阜県
- 京都市
- 京都府
- 京都府教育委員会
- 甲賀市
- 皇宮警察本部
- 滋賀県

- 滋賀県教育委員会
- 滋賀県警察
- 東京国税局
- 富山県教育委員会
- 長浜市
- 奈良市
- 浜松市
- 彦根市
- 福井県警察
- 三鷹市
- 三原市

◆進学先

- 滋賀県立大学大学院
- 岐阜大学大学院
- 九州大学大学院

2015~2017年度卒業生の業種別就職状況



取得可能な資格一覧※

- 教員免許: 中学校教諭一種(社会) 高等学校教諭一種(地理・歴史)
- 学芸員資格
- 社会調査士資格 ● 地域調査士資格
- 社会福祉士主任任用資格

2013年度卒業
勤務先: JA 東びわこ
岸本 香歩さん

OB & OG Message

JA東びわこは、農業に係る営農経済事業、貯金や為替を取り扱う信用事業、人・いえ・くまを保障する共済事業などの他に、福祉や舞祭といった幅広い事業を展開する総合JAです。私は支店の窓口として、主に信用業務を担当しています。信用、共済、営農経済の幅広い専門知識が必要とされ、現在も勉強の日々ですが、お客様の感謝の声が励みになっております。大学では考古学を専攻し、発掘調査への参加や史料を実見しに現地へ赴くなど、積極的にフィールドワークを行っていました。その中で目的のために自ら行動する姿勢、自ら得た情報を整理し再構築する力が身に付き、社会人となった今にも生きています。また、祭りや古文書などの様々な現地調査に参加し、地域の方とコミュニケーションをとる多くの機会を得ました。この経験があったからこそ、窓口でお客様の話を親身になって聞き、最大限お役に立てよう考えることができるようになったと思います。今後、お客様の求められることを汲み取り、目的や状況に最も適した商品提案、提供することで、信頼され、信頼に応えられる職員を目指して努力していきます。

(2018年1月現在)

※すべての資格は、大学が定める所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。